

えんちょう通信

No.26

令和2年9月10日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤一男

「うわー！ ぶどう 大きい！」

9月9日(水)、今年初めての園外保育です。今日は、欠席もなく、全員出席です。子どもたちみんなで、福島市役所清水支所の南側の山岸幸一さんのぶどう畑まで、歩いて出かけました。待ちに待った「ぶどう狩り」です。

子どもたちが歩いていると、通りですれ違った近所の方が、「おはよう、どこに行くの?」「ぶどう狩りかい? いいね。」などと、声をかけてくれます。交番のおまわりさんも手を振って見送ってくれています。

30分くらい歩いて、ようやく清水支所の駐車場につきました。すると目の前に一面緑のぶどう畑が広がっています。中に入った男の子が、ぶどうの房を見上げて、「うわー！ おっきい。ぶどう、おっきい！」と目を丸くしています。

もう山岸さんご夫妻が、ぶどう畑の中にブルーシートを敷いて待っていてくださいました。たくさんぶどうの房の中から選んでもらったブドウをひと房、ハサミでパチンと切ってとります。巨峰のひと房は思ったよりもずっと重たくて、つい落としてしまう子もいます。すると山岸さんが「もう一度 とっておいで。」と言って、もうひと房とらせてくれます。自分でとったぶどうは、その場で袋に入れてもらって、おみやげにしました。

そして、とっておいでくれたぶどうをたくさん食べさせてもらいました。皮をむいてほおばると、甘い味が口の中一杯に広がります。甘くてほっぺたが痛くなるくらいです。とても幸せな時間です。

子どもたちは、こんなにも地域のみなさんに大切にされています。本当にありがたいと思います。こんなふうに大切にされた経験は、子どもたちが何かつらいことにぶつかったときに、その子を支える力になるのではないかと思います。素敵な園外保育になりました。



「ぶどう 重たいな……。」



「袋に入れて、おみやげにしましょうね。」